令 和 4 年 度　事 業 報 告

１　事業報告

少子高齢化による人手不足と人口減少が進み、事業主には70歳までの就業確保が努力義務とされるなど、高齢者の働く機会拡大への施策が推し進められる中で、当センターが事業目的としているところの、高齢者による「自主・自立、共働・共助」の理念のもと、会員へ就業機会を提供し、地域社会への貢献と生きがいづくりに向け、様々な事業活動に取り組んだところであります。

日々の暮らしの中で健康寿命の延伸と健康維持への意識改革が進み、体を動かして健康年齢が維持され、シルバーの働き方が会員の健康や医療費抑制に役に立っているとの調査結果もあり、新規入会者や高齢となってもまだまだ元気に就業している会員も見受けられ、安全・安心を合言葉として安全就業対策に取り組みながら事業運営にあたりました。

特に新型コロナウイルスの感染者数は減少傾向となり、年度末にようやくマスク着用が個人の判断が基本となる中で、会員の外出や交流の自粛など行動変容が生じ、様々な活動に影響を与えたところであります。

こうした中で、令和４年度末の会員数は年度当初の会員数とほぼ同数の 251 名であり、年間の入退会は 32 名、退会者は 29 名と、様々な入会活動に取り組んだものの、大幅な増加には至らなかったところです。

令和４年度の事業実績は、受託事業では受注件数が 1,591 件となり前年より 34 件の増、就業延人員が 27,004 人となり前年より 2,038 人の増、契約金額は 122,315 千円と、前年より 11,561 千円の増となり、一方、派遣事業では就業延人員は2,974 人となり、前年より 112 人の減、契約金額は23,744 千円となり前年より 968 千円の減となりました。

受託事業と派遣事業の契約金額総額では146,060 千円と昨年より 10,593 千円の増となり、この増加の要因としては夏季の外作業で降雨量が多く雑草の伸びが著しく作業量が増加したこと、冬季の降雪量が昨年より多く除雪作業の依頼の増加などによるものです。

このため、当初予算に対して受託事業収益においては配分金ついては増加したものの、受取事務費が業務実施にあたり費用を要したため減となり、事業活動収支においては経費削減に努めましたが、当初予算した赤字額と同程度の決算となったところであります。

当センターの会員数は中期計画では令和８年度に 300 人としていますが、コロナ禍により令和元年度の水準245 人まで戻すことを最優先に掲げる中で､市、道シ連、会員及び役職員の協力のもと各種事業に取り組みながら事業運営にあたり、本年度の事業活動収支は収支均衡を図ることができませんでしたが、士別市が目指す「市民が豊かにいつまでも安心して暮らせるまち」づくりにおいて、シルバー事業は地域生活に密着した事業所として貢献できたものと考えております。

事業実績　　※千円未満四捨五入表示

区　分		令和４年度実績	令和３年度実績	増　減
登録会員数　　（人）		251	248	3
受託事業	受注件数　（件）	1,591	1,557	34
	就業延人員（人）	27,004	24,966	2,038
	契約金額（千円）	122,315	110,754	11,561
	就業率　　（%）	88.0	83.1	4.9
派遣事業	受注件数　（件）	21	20	1
	就業延人員（人）	2,974	3,086	△112
	契約金額（千円）	23,744	24,713	△968
契約金額総計　（千円）		146,060	135,467	10,593

２　事業実施内容

（１）会員数の拡大

新規会員の加入に向け、地元新聞への会員募集広告の掲載や啓発用チラシの新聞折り込み、市内大型店前での入会活動や広報誌「シルバーだより」を年２回発行し、会員への啓発活動にあわせて会員による知人、友人の紹介依頼などによる「１人１会員入会活動」に取り組むなど、様々な会員拡大活動に努めた結果、都合により１割の方の退会がありましたが、同数の新規入会者を確保することができ、結果的には会員数は横ばいとなりました。

（２）就業機会の拡大

会員個々の希望職種に応じた公平な就業機会の提供にあたり、未就業者の会員には軽作業の公園一斉清掃などへの就業紹介、長時間や長期間の就業依頼には交代制とするなど、多くの会員が就業機会を得られるように努めました。

（３）就業分野の拡大

高齢者にふさわしい仕事として、臨時的・短期的かつ軽易な業務を請負・委任又は派遣事業の受注拡大に努めたところ、事務所内の清掃作業や施設の管理業務など、新たな受注先を確保することができました。

（４）安全就業対策

安全就業対策委員会が中核となり、定期的に委員会を開催するとともに、春の交通安全教室、刈払機実技指導、就業会員の自転車点検と安全大会の実施、冬季作業に向けた除雪説明会等の開催など、会員への安全就業の推進に努めました。

しかし、刈払機による草刈作業中に石飛による損害賠償事故と就業途上の際に転倒による傷害事故がそれぞれ１件発生し、事故防止への更なる取り組みの強化が課題となりました。

（５）適正就業の推進

地域社会では労働力不足が顕在化し、一般家庭でも独居高齢化世帯が増加する中で、高齢者にとっては重労働で危険が伴うような就業依頼に対しては、受注困難として対処したものもあり、更には、シルバーの取り組みが民業への圧迫や労働市場への影響を与えることのないよう、会員及び発注者に対して「適正就業ガイドライン」の周知のもと、安全・適正就業による事業活動に努めました。

（６）財政基盤の強化

公益社団法人として事業活動に取り組み、公共施設の維持管理業務や市民の日常生活に密着した就業により、地域社会の発展に努めたところです。

受取補助金は昨年と同額の交付を受けることができましたが、契約金額は増加したものの受取事務費が減となり、経常収益では夏季は天候に恵まれ業務も順調に推移し、冬季も除雪業務が増加し、経費節減に努めましたが、当期経常増減額は当初予算と同程度の赤字額となりました。

事業活動に必要な什器備品は計画的に補充して対応し、経費節減に一層努めながら、効率的な業務処理にあたりました。

（７）組織体制の強化

高齢者による自主的な運営組織として、総会、理事会、専門部会、安全就業対策委員会、地区班推進会議などでの活発な協議のもとに、課題解決と適切な事業運営にあたり、会員同士が働く喜びや充実感とともに意思疎通を深めながらシルバー事業にあたりました。

また、事務局では業務課を中心に、発注者と会員から信頼される業務処理にあたりました。

（８）関係機関・団体との連携強化

シルバー事業の目的達成のため、士別市をはじめ、全国シルバー人材センター事業協会、北海道シルバー人材センター連合会などの関係機関の指導のもと、道内や道北ブロックのセンターとも連携しながら、事業の円滑な推進に努めました。

（９）その他

令和４年に法人設立 30 周年を迎えたことから、令和４年度を準備期間とし、令和５年度実施に向けて実施要領を検討することとしましたが、コロナ感染拡大による催事や交流の自粛、開催費用への課題、事務対応の観点などから 40 周年記念事業に向けて計画性をもって対処することとしました。